

対応・英抄なし

特 許 庁

実用新案出願公告

35 A 53

実 用 新 案 公 報

昭33-11881

公告 昭 33.8.8 出願 昭 31.8.3 実願 昭 31-39534

出願人 考案者 白 井 光 次 東京都北多摩郡小平町野中新田
 与組447
 代理人 弁理士 永 富 鎮 雄 (全2頁)

電 気 魚 焼 器

図 面 の 略 解

第1図は本案電気魚焼器の一部欠端面図、第2図はその一部欠截平面図、第3図はその一部欠截側面図である。

実 用 新 案 の 説 明

本案は四角形枠aの底壁1の両側端縁部に内面に電気加熱体2, 2'を装設してなる両側加熱用覆板b, b'の下縁部を蝶着3, 3'して該両側加熱用覆板b, b'を上記枠aの両側開口面に開閉自在に装設すると共に上記枠aの両端壁4, 4'上部に魚串5の両端部嵌入用の一端部の開口せる切込溝6, 6'を設け且つ上記枠aの底壁1上に油受容器cを設けてなるものである尚図中7, 7'は電導線、8, 8'は把手、9は支脚である。

本案は上述したように構成したため魚焼きをなす場合には図面に鎖線で示したように串5に魚10を刺し該串5の両端部を枠aの両端壁4, 4'の上部に設けた切込溝6, 6'内に嵌入して魚10を枠a内に吊架し両側加熱用覆板b, b'を第1図に鎖線で示したように起立させて該両側加熱用覆板b, b'で枠aの両側開口面を覆い両側加熱用覆板b, b'の

電熱体2, 2'に電気を通することによつて魚10を裏返えす手数を要せず両面を同時に好能率的に焼くことができるは勿論両側加熱用覆板b, b'の電熱体2, 2'に対しては加熱によつて侵出する油が滴下することがないので長き使用に耐え而も加熱によつて侵出する油は枠aの底壁1上に設けた油受容器c内に受止められるので台面を汚損する患がなく又焼けた魚を取り出す場合には一方の加熱用覆板bを開き串5の両端部を切込溝6, 6'から抜き出すことによつて簡単に取り出すことができる等使用上有利な効果を有するものである。

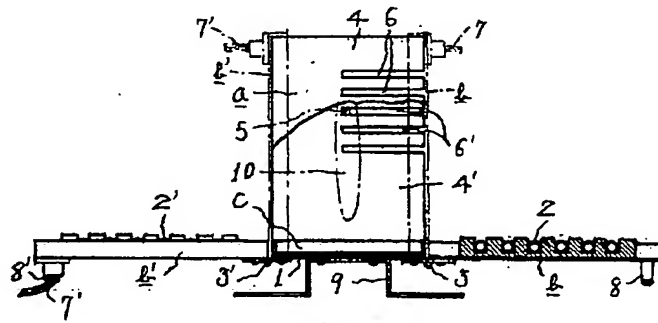
登 録 請 求 の 範 囲

図面に示す様に四角形枠aの底壁1の両側端縁部に内面に電熱体2, 2'を装設してなる両側加熱用覆板b, b'の下縁部を蝶着3, 3'して該両側加熱用覆板b, b'を上記枠aの両側開口面に開閉自在に装設すると共に上記枠aの両端壁4, 4'上部に魚串5の両端部嵌入用の一端部の開口せる切込溝6, 6'を設け且つ上記枠aの底壁1上に油受容器cを設けてなる電気魚焼器の構造。

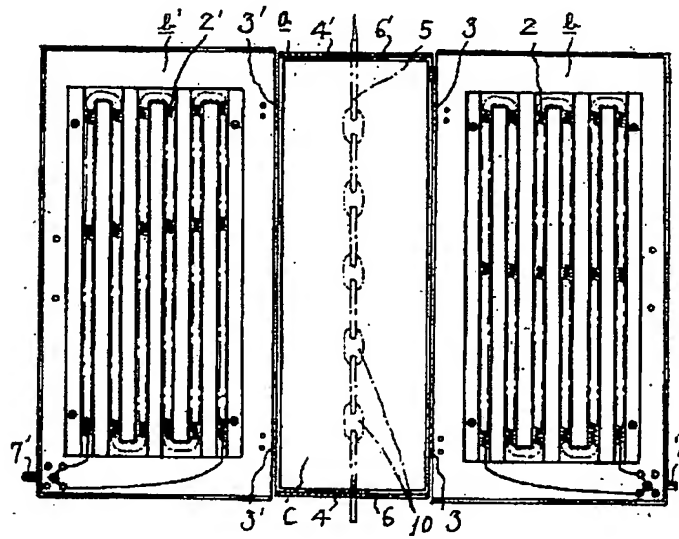
(2)

實用新案出願公告
昭33-11881

第1圖



第2圖



第3圖

